

地域の観光資源の磨き上げを通じた
域内連携促進に向けた実証事業
最終報告書

事業者番号 : 232002

連携産業 : 交通 製造 福祉

採択事業者名 : エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

採択事業名 : 水路と陸路で巡る夜の城下町マイクロ観光実証
～水都まつえ・土曜つながナイト～

令和 4 年 2 月 21 日

1 本事業の背景と目的

※いずれも簡潔（3～4行程度）に記載してください。

事業実施の背景
<p>松江の観光の王道である松江城エリアは多くの観光客が訪問するものの、横への導線はつながりが悪い。観光宿泊エリアと、昼の観光、夜の飲食エリアが分断され、回遊性が乏しい上に、夜の魅力的なコンテンツも不十分で宿泊客の多くは施設内に滞在する傾向にある。松江の観光資源を活かしながら市民の暮らしや気質、地域生活を体感できる観光機会も乏しいという課題がある。</p>
事業実施の目的
<p>松江に訪れる観光客により地域が活性化されるよう、観光宿泊エリアと松江城周辺エリア、夜の飲食エリアの回遊性を高める。そのために新たに魅力的なコンテンツを作り、また従来からあるものに磨きをかける。</p>

2 事業概要

※本事業の背景と目的を踏まえ、「どんな地域資源を主軸として、どのようなコンテンツを造成するか、どのような事業成果を見込んでいるか」という観点から記載してください。

※簡潔（3～4行程度）に記載してください。

事業概要
<p>①グリーンスローモビリティや堀川遊覧を活用したまちあるき観光・ユニバーサルツーリズム ②市民の暮らしや気質、おもてなしの心から誕生した「松江おどん」とこれを活用した商品の開発とPR ③体験型おもてなし観光と賑わい交流の場づくり の3つのコンテンツを造成し、それらを絡めて継続的に取り組める事業を組み立てる。</p>

3 実施体制

	連携先名称	連携するメリット・期待する役割
実施体制	松江旅館組合	宿泊客の誘客、グリスロ乗降所設置
	松江しんじ湖温泉旅館協同組合	宿泊客の誘客、グリスロ乗降所設置
	松江市観光振興公社	堀川遊覧運行と集客
	松江市	事業についての評価、助言

	観光客	事業についての評価
	地元住民	事業についての評価
	松江商工会議所	事業実施協力、準備、検証
	島根県立松江養護学校	福祉的視点を加えた商品開発
	一般社団法人 Expe	体験型おもてなし観光実施
	島根県立大学	福祉的視点を加えた商品開発
	社会福祉法人四ツ葉福祉会	福祉的視点を加えた商品開発
	山陰だんだん屋台村	事業実施協力、準備、検証
	社会福祉法人みずうみ	事業実施協力、準備、検証
体制構築	体制構築にあたって中心的な役割を果たした人物・団体	
	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長	
	社会福祉法人みずうみ理事長 岩本雅之	
	分科会 1	グリスロ運行・車両・ルート設定・効果検証
	分科会 2	堀川遊覧運航・夜の魅力・水路としての活用
	分科会 3	コロナ感染症対策
	分科会 4	【広報】HP・ツイッターサイトの構築 (松江の魅力を発信できるプラットフォームの継続的な構築)
	分科会 5	【広報】オンライン交流 (第2回 つながり一十交流)
	分科会 6	【広報】土曜つながナイト 周遊マップ・案内チラシ・モバイルスタンプラリー
	分科会 7	まちあるきに優しい道しるべづくり 水燈路・石材モニュメントの設置
分科会 8	松江おどん 味の多様化+地元で愛される商品のセット化の促進	
分科会 9	おもてなし体験プログラム	
分科会 10	空き店舗の活用	

連携にあたり工夫した点

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会は2017年に発足し、業種問わず官民連携による団体として活動してきた。その活動の中で発案されたグリーンスローモビリティは、共助型モビリティとして団地内で運行され地域住民の足として生活を支えている。会は現在5年目を迎え、構成員は増加傾向にある。今回の実証事業においても本会メンバーを中心に検討を重ね、事業に必要と思われる方や新たに加わりたいという方とともに分科会を編成してより詳細に内容を固めてきた。コロナ禍にあっても、本会は出来得る限り互いのつながりを重視し、継続した意見交換を行ってきた。

※ 必要に応じて、行を増やしてください。また、空白行は削除してください。

4 各取組の実施状況について

(1) 取組状況概要

取組名※1	取組概要	主な成果の概要
取組1：グリーンスローモビリティ・堀川遊覧を活用したまちあるき観光・次年度に向けた効果検証	グリーンスローモビリティによるマイクログ観光運行、水路としての魅力、夜の堀川遊覧の運航	<p>11月13日、20日、27日の3日間実施完了。</p> <p>グリーンスローモビリティ利用者延べ人数 515人。</p> <p>便利さ評価 97.5%</p> <p>安全性評価 94.9%</p> <p>堀川遊覧利用者延べ人数 331人。</p> <p>満足度 100%</p>
取組2：松江の魅力を発信できるプラットフォームの継続的な構築・モバイルラリー・オンライン交流の推進	<p>・松江おどん×つながる地域30サイトの構築 https://www.chiiki30.jp/</p> <p>・土曜つながナイトサイトの構築 https://event.eco-uni.net/</p> <p>・モバイルスタンプラリーの運用</p> <p>・YouTubeによるオンライン交流</p>	<p>11月13日、20日、27日の3日間実施完了。</p> <p>モバイルスタンプラリー参加者延べ人数 251人。全イベント参加者の内28.1%が参加。</p> <p>オンライン中継視聴者数延べ787回 ※1月18日現在 866回</p> <p>ツイッター投稿数 1,109回。 ※現在、サイト、YouTube、ツイッター、継続的に運用している。</p>
取組3：松江おどんの多様化＋地元で愛される商品のセット化の促進	松江おどんを提供するお店との連携、味の多様化、セット商品及び関連商品の開発	<p>11月13日、20日、27日の3日間実施完了。</p> <p>おどん総数 692食を提供。</p> <p>満足度 100%</p>

<p>取組４：おもてなし観光・地域の共生・にぎわい交流</p>	<p>おもてなし観光団体による体験プログラム並びに共生社会の実現に向けたにぎわい交流 連携団体 島根県立大学、一般社団法人 Expe 四ツ葉福祉会、島根中央信用金庫、 松江京店商店街協同組合、 社会福祉法人みずうみ それぞれの団体との連絡・協力</p>	<p>11月13日、20日、27日の3日間実施完了。 体験プログラム 11種類実施。定員320名に対し参加者総数 232名。72.5%参加。 満足度 82.4%</p>
<p>取組５：水燈路による、まちあるきに優しい道しるべづくり</p>	<p>グリーンスローモビリティ運行、まちあるきルートを水燈路で案内する。</p>	<p>11月13日、20日、27日の3日間実施完了。 水燈路 312個設置。 満足度 96.5%</p>

※1 取組名には、事業計画書の「具体的な取り組み内容」項目内に記載の取組名を記載してください。

※2 必要に応じて、行を増やしてください。その際には、取組名に付されている数字が連番になるように調整してください。また、空白行は削除してください。

(2) 実施スケジュール

※月別に、主な取組内容（検討会議、モニターツアー実施など）を記載してください。

時期	主な活動内容
2021年6月	第1回エコ×ユニ会議
2021年7月	第2回エコ×ユニ会議
2021年8月	第3回エコ×ユニ会議
2021年9月	第4回エコ×ユニ会議 土曜つながナイト事業説明会（Aコア会議 Bコア会議） 分科会②-1回、分科会③-1回、分科会⑦-1回
2021年10月	第5回エコ×ユニ会議 第6回エコ×ユニ会議 分科会①-9回、分科会②-4回、分科会③-4回、分科会④-6回 分科会⑤-10回、分科会⑥-7回、分科会⑦-5回、分科会⑧-7回 分科会⑨-5回、分科会⑩-7回
2021年11月	第7回エコ×ユニ会議 分科会①-6回、分科会②-3回、分科会③-2回、分科会④-2回 分科会⑤-5回、分科会⑧-7回、分科会⑨-1回、分科会⑩-2回 実証イベント実施（11/13、11/20、11/27）
2021年12月	土曜つながナイト中間報告会
2022年1月 2022年2月	最終報告会に向けた打合せ・協議 ※資料回覧・意見聴取
2022年3月	最終報告会 ※今後の取り組みに対する協議

(3) 取組詳細

- ※ 中間報告書に記載した内容については、文章を転記していただいて問題ありません。ただし、中間報告時点からの更新箇所や、10月以降に行った追加の活動については、**赤字で更新・追記**してください。
- ※ 本報告書の提出時に、補足説明になるような添付資料（実施時の写真、事業内で利用した資料など）を併せて提出してください（原則として提出をお願いいたします）。なお写真・画像については、「資料 4-3 画像提出」に挿入して提出してください。

実証（モニターツアー、イベント等）の参加者については、【実施内容】箇所にその詳細（所属や属性、人数など）を必ず記載してください。

取組 1 ※1	グリーンスローモビリティ・堀川遊覧を活用したまちあるき観光・次年度に向けた効果検証
取組時期	令和3年11月13日(土) ~ 令和3年11月27日(土)
取組主体者・連携者名	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 松江市、市内交通事業者、松江旅館ホテル組合、松江しんじ湖温泉旅館協同組合、松江市観光振興公社
取組内容	<p>【実施内容】</p> <p>松江市内で生活交通として活用しているグリーンスローモビリティが観光の移動手段として適正が高いと推察し選定した。</p> <p>実施場所としては、松江しんじ湖温泉から松江ニューアーバンホテル、更に松江の北側の観光名所や繁華街を結ぶエリアを選定した。</p> <p>また通常日中運行している堀川遊覧を夜間運行することによって新しい観光ツールとして磨き上げることができるのではないかと選定した。</p> <p>グリーンスローモビリティの運行ルートを設計、拠点となるポイントを設定した。</p> <p>グリーンスローモビリティの運行にあたって松江市内交通事業者の協力を求めることを決定した。</p> <p>【参画者】（所属・氏名）</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 メンバー 山根啓典</p> <p>松江旅館ホテル組合 組合長 植田祐市</p> <p>松江市観光振興公社</p>

専務理事 乙部明宏

●グリスロ

(ルート設定)

【実施内容】

グリーンスローモビリティの運行拠点を決定した。

松江しんじ湖温泉エリアではなにわー水を候補としていたが、改修工事の期間中のため、松江しんじ湖温泉旅館協同組合と松江旅館ホテル組合が入る施設である COCO 松江を拠点と決定した。

その他は、松江ニューアーバンホテルと、カラコロ広場、カラコロ広場への乗り入れが一方通行の関係で難しいことから広場に接続する京橋を乗降所として設定した。

旧松江くらは候補であったが、単なる周遊ルートとして設定していたことと、グリーンスローモビリティのバッテリー消費の観点から運行拠点から外すこととした。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

メンバー 山根啓典

メンバー 梶野孝彦

メンバー 武田英俊

メンバー 永島有

メンバー 本庄雅樹

メンバー 坪倉大吾

メンバー 山根純

松江旅館ホテル組合

組合長 植田祐市

松江しんじ湖温泉旅館協同組合

組合長 勝谷有史

(運行事業者)

【実施内容】

グリーンスローモビリティの運行担当事業者を決定した。

複数のタクシー事業者への相談の結果、有限会社秋代行ふくタクシーへ依頼することとなった。

【参画者】（所属・氏名）

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

メンバー 山根啓典

メンバー 武田英俊

有限会社秋代行 ふくタクシー

専務取締役 上原勲

（運行準備）

【実施内容】

グリーンスローモビリティの運行時間や定員を設定した。

グリーンスローモビリティの台数と搬送について決定した。

アンケート内容について決定した。

【参画者】（所属・氏名）

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

メンバー 山根啓典

メンバー 梶野孝彦

メンバー 武田英俊

メンバー 永島有

メンバー 本庄雅樹

メンバー 坪倉大吾

メンバー 山根純

（運転者講習）

【実施内容】

グリーンスローモビリティの運転者講習をふくタクシーのドライバー2名に対し実施した。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

メンバー 武田英俊

有限会社秋代行 ふくタクシー

吉野・糸川

(運行時の情報)

【実施内容】

11月13日(土)、20日(土)、27日(土)16:00~21:00の間で30分おきにグリーンスローモビリティを運行した。

ルート①COCO松江⇄ホテルニューアーバン 往復10便

ルート②ホテルニューアーバン⇒京店カラコロ広場

⇒ホテルニューアーバン 10便

13日実施時、ルート②は宿泊客の乗車希望が多いことが判明。更にモビリティのバッテリー消費が想定よりも少ないことから3台同時運行も可能と判明。

それを受けて20日、27日のルート②は2台での運行を行った。

13日、20日の運行時には、エンクロージャーは使用せず、オープンにして走行した。27日は気温が低くエンクロージャーを使用した。シートには寒さ対策として毛布を敷いた。

(アンケート)

【実施内容】

アンケートについては、ゲーグルフォームで作成し、モバイルスタンプラリー終了画面からアクセスできるよう改良した。モバイルスタンプラリー参加者でない場合は、紙でのアンケート提出を依頼した。

イベント実施翌日以降も参加者へはモバイルアンケートに協力いただくよう一斉メールで促した。

【実施者・参加者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

メンバー 武田英俊

メンバー 山根純

メンバー 山根啓典

メンバー 山本幸史

●堀川遊覧船

(運航の準備)

【実施内容】

堀川遊覧の夜間運行が安全に実施できるよう、直線ルートの往復を設定した。

堀川遊覧の運行の担当者を決定した。

堀川遊覧の運行時間や便数、定員を(6人)設定した。

堀川遊覧運行中の船内での催しを検討した。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

メンバー 杉谷健

松江市観光振興公社

専務理事 乙部明宏

事務局長 伊藤竜男

営業企画係長 松浦孝

(楽器演奏)

【実施内容】

堀川遊覧運行中の船内での催しについて楽器演奏を地元音楽家へ依頼することとした。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

メンバー 杉谷健

松江市観光振興公社

専務理事 乙部明宏

事務局長 伊藤竜男

営業企画係長 松浦孝

(運行時の情報)

【実施内容】

	<p>11月13日（土）、20日（土）、27日（土）16：00～21：00の間で15分おきに往復18便を運行した。</p> <p>バイオリン、ハープ、フルート、ギター、トランペットを船内や乗り場付近で演奏した。</p> <p>また、船を電飾で飾り夜景に映えるようにしたり、船内で音楽を流したりなど工夫した。</p> <p>●グリーンスローモビリティ運行状況</p> <p>夜景を眺めながら移動でき、賑わうイベント会場へと繋げるモビリティは、単に移動手段だけでなく、そのものがアトラクションのように利用いただけた。</p> <p>秋深い時期で寒さが増す時期ではあったが、乗車された方々からは高評価をいただいた。</p> <p>【利用人数】</p> <p>11月13日 延べ134名乗車。 11月20日 延べ189名乗車。 11月27日 延べ192名乗車。 計515名乗車。</p> <p>●堀川遊覧運行状況</p> <p>普段は昼間の運行であること、通常料金大人1,500円、小人800円であることから、夜間に無料で運行することは物珍しく多くの方々からの予約が殺到した。</p> <p>また、特別な雰囲気づくりとしてプロ演奏家による楽器演奏を加えたことは更に価値を高めることができ、みがき上げができた。</p> <p>ニューアーバンホテルの宿泊者にとっては、近距離移動で乗船できることが認知され大きな収穫となった。</p> <p>【利用人数】</p> <p>11月13日 延べ91名乗船。 11月20日 延べ114名乗船。 11月27日 延べ126名乗船。 計331名乗船。</p> <p>堀川遊覧とグリスロをつなぐ運行設定をしたことで、郊外と中心部をつなぐ、山陰の観光を楽しめるような旅の支援をすることができた。</p>
--	--

	<p>取組に対する指摘・意見</p>	<p>【実施主体・連携事業者・実証参加者から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グリスは冬時期は寒かったものの乗り心地は良く楽しかった。 市内観光用に実用化して欲しい。 ・ グリスはシートベルトが無いため子供や高齢者のためには必要だと思う。 ・ 堀川遊覧に生演奏、素晴らしかった。 ・ 堀川遊覧のライトアップをもっと増やした方が良かった。 ・ 観光客向けに枠や便数がより多くあると良い。 <p>【有識者・専門家から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松江城址の塩見縄手を中心とする歴史ゾーンに対して、近代化の過程を辿った市街地過程で大火によって免れた京橋川から大橋川、宍道湖温泉まで水を通じて地域資源は広範囲に及んでいる。こうした点在するサイトは、それぞれ同士が適当な距離感で結ばれてはいるものの、全てを周遊しようとすれば、時間がかかる。後期高齢者や子連れまでの取り込みを考えれば、歩行支援は必要不可欠と云ってよかろう。グリーンスローモビリティは、この点を解消すると位置付けられるが、松江の裏通りによってサイト同士を結ぶことで直交性の高い体験が可能になっていた点は評価できよう。松江しんじ湖温泉とカラコロ広場のおどん体験などは、普段結びつかない体験が、堀川遊覧のような乗り物そのものが目的となる異なるモビリティによってつながれており、移動そのものが目的となりつつも、体験そのものも松江にしかないもので構成されており、ツーリズムの圏域拡大と地元の担い手育成という点で大きな可能性が感じられるものであった。 ・ グリーンスローモビリティの移動経路途中にも地元の良店や歴史的なストーリーが存在するが、アクティビティのつくりこみによって囲い込みがなされていた。感染症の管理という点では効果的だが、ツアー動線自体は市域のなかで希釈されており管理そのものも念入りに行われていたので、プラスワンステーションの工夫があってもいいのではないか。 ・ 具体的には、完成した感のある塩見縄手の城址地区に対して、雑賀町や天神地区、しんじ湖温泉といったゾーンへの周遊の拡大においては、途中の地元店情報の提供と途中下車の実施、しんじ湖温泉のプログラムの改善などが求められる。 ・ 集団ツアーは、意思決定を委ねられるという良さがあるのに対して、一人旅は、自分で旅の道筋を判断していることが松江に対する認知的関与を高
--	--------------------	---

		<p>め、旅への関心や満足感を深めることになるだろう。全てをグリーンスローモビリティや堀川遊覧でつなぐのではなく、サイトからサイト途中の地域資源を掘り起こし、一人歩きを組み合わせることで、小さな冒険感を演出することが可能になるかもしれない。</p> <p>・またこうした一人歩きに対して、各サイトはやはりある程度求心力が求められるものでもあるから、しんじ湖温泉などで各サイトには居場所感も欲しい。温泉に入ったり、マッサージを受けるなど、滞在型ツーリズムであれば、外湯文化が求められるわけなので、城址近傍のリノベーションされた宿泊先からの動線としてグリーンスローモビリティは有効だし、とすれば、しんじ湖温泉施設および周辺空間のリノベーションが中長期的には重要となろう。</p> <p>(東京大学 羽藤英二教授)</p>
	<p>実施時に工夫した点</p>	<p>●グリーンスローモビリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間走行によるバッテリー消費が心配であったため、3台の車両の内1台は予備としていたが、初日を終えての消耗が想定を下回ったため、宿泊観光客の利用希望が多かった拠点について2台体制に変更した。 ・ドライバーについては、タクシー会社へ委託し、2種免許所有のタクシードライバーが運転。事前に車両に慣れるための講習を経て、更に安心できる運行となった。 <p>●堀川遊覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前予約によって早い段階で定員上限に達する見込みがあったため、当日の宿泊観光客向けの枠を確保し対応した。その結果、県外の方にも多く乗船いただけた。 ・通常は昼間50分間の周遊コースを使用するが、本イベントでは通常とは異なる直線往復のコースを設定。20分間に短縮した便としたため、多くの方に乗船いただけた。 ・単に乗船頂くだけでなく、音楽を流したり、プロの音楽家による演奏を加えたり、船やコースをライトアップしたりと目や耳でも楽しめるように工夫した。
<p>備考</p>		

取組 2 ※1	松江の魅力を発信できるプラットフォームの継続的な構築（HP・モバイルスタンプラリー・オンライン交流の推進）
取組時期	令和3年11月13日(土) ～ 令和3年11月27日(土)
取組主体者・ 連携者名	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 松江市、観光客、地元住民
取組 内容	<p>●松江の魅力を発信できるプラットフォームの持続的な構築 （イベント開催までの準備）</p> <p>【実施内容】</p> <p>おでん店も多くおでんの街として知られる松江の魅力の一つとして「松江おどん」を選定。他の地域ではあまりない独自のメニューを磨き上げることとした。</p> <p>「松江おどん」の認知を広めるツールとして紹介ホームページの作成やYouTube 配信によるオンライン交流での紹介、ツイッターでの紹介、スタンプラリーでの活用を進めることとした。</p> <p>【参画者】（所属・氏名）</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 メンバー 岩本真一郎</p> <p>株式会社テクノプロジェクト マネージャー 庄司雅英 周藤由香里</p> <p>リコージャパン株式会社 マネージャー 長谷川恭平 佐藤千恵</p> <p>（紹介ホームページ）</p> <p>【実施内容】</p> <p>「松江おどん」紹介ホームページを作成した。以前「松江おどん」のイベントを実施した関係者や商工会議所からの情報を紹介。ホームページとツイッターを連動させた。</p> <p>又、全体像を明確にするために、「土曜つながナイト」の公式サイトを作成し、実施する内容の周知に努めた。</p> <p>【参画者】（所属・氏名）</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会</p>

	<p>事務局長 岩本雅之 エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 メンバー 武田英俊 メンバー 岩本真一郎</p> <p>株式会社テクノプロジェクト マネージャー 庄司雅英 周藤由香里</p> <p>M&A 山根純</p> <p>●オンライン交流 (オンライン交流の準備) 【実施内容】 オンライン交流の仕組みを検討した。 オンライン交流では、各拠点会場の様子を中継で結ぶことや、イベントの紹介、松江おどんの紹介などを行うこととした。 オンライン交流のスケジュールやゲストを検討した。</p> <p>【参画者】(所属・氏名) エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之 メンバー 武田英俊 メンバー 山根千晶 メンバー 岩本真一郎</p> <p>リコージャパン株式会社 マネージャー 長谷川恭平 佐藤千恵</p> <p>(YouTube Live 配信) 【実施内容】 11月13日(土)20日(土)27日(土)19:00~20:00においてYouTube Liveを配信した。 配信の拠点は空き店舗である旧松江くらぶ(おどんステーション5階)を使用した。 各拠点会場の様子をZoomで中継し、ツイッター投稿をピックアップして紹介、本イベントや松江おどん、地元のお店や商品、活動などをゲストを交え</p>
--	--

て配信した。

13日には、松江市の上定市長もイベントに参加され、そのままゲストとして出演いただいた。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

メンバー 山根千晶

メンバー 岩本真一郎

リコージャパン株式会社

マネージャー 長谷川恭平 佐藤千恵

●モバイルスタンプラリー

(スタンプラリーの準備)

【実施内容】

スタンプラリーの仕組みを検討、作成した。

スタンプラリーのスタンプに県立大学の学生が作成したキャラクターやデザインを採用した。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

メンバー 武田英俊

メンバー 岩本真一郎

リコージャパン株式会社

マネージャー 長谷川恭平 佐藤千恵

島根県立大学

准教授 西村健一

(スタンプラリーの実施)

【実施内容】

11月13日(土)20日(土)27日(土)16:00~21:00においてモバイルスタンプラリーの会場を5箇所設置し実施した。

COCO松江、ホテルニューアーバン、カラコロ広場、京店ギャートルズ

広場、旧松江くらぶ（おどんステーション）

●チラシの作成

【実施内容】

当該事業の概要を分かりやすく伝える周辺マップ・案内チラシを作成し、1,000部配布した。

【参画者】（所属・氏名）

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

メンバー 武田英俊

メンバー 岩本真一郎

千鳥印刷 渡部 幸基

さんいん中央テレビ 江角 淳子

●公式ホームページ活用状況

観光資源である、「松江おどん」の内容紹介・提供店舗の紹介をしており、観光資源の磨き上げに貢献した。

また、水都まつえ・土曜つながナイトを構築し、すべての事業の見える化に努め、情報の整理・検証と今後、持続的な取り組みにつなげられるよう心掛けた。

【利用人数】

<ホームページ閲覧件数>

実証実験中（11月13日～11月30日まで）、松江おどん×つながる地域30サイトの全体アクセス数は5,906件であった。

●オンライン交流・空き店舗活用実施状況

YouTube Liveにて各地点をつなぎ、オンライン交流を行った。松江おどんや堀川遊覧船の紹介等、観光資源をオンラインで紹介した。

カラコロ広場にはYouTube Live用のモニターを設置し、他の拠点の様子を観覧できた。

【利用人数】

<YouTube Live視聴回数>

11月13日～11月30日の期間集計

11月13日452回、11月20日235回、11月27日100回、
計787回視聴。

●ツイッター実施状況

「#つながる松江おどん」のツイッター投稿数の目標を1,000件とし、開催中、スタッフや参加者の多くの方にツイッター投稿をしていただいた。イベントの様子を撮影した写真や動画付きの投稿が多く、視覚的に分かる活用方法だった。

全体的に好印象のツイッターが多数あり、参加者の生の意見をとりいれることができたことが成果だった。

【利用人数】

11月13日～11月30日の期間集計

<ツイッター投稿数> 総数1,109件

●モバイルスタンプラリー実施状況

大人ももちろん、子どもたちにも評判がよく、楽しんでスタンプラリーに参加していただいた。

通常の紙のスタンプラリーより、スマホのカメラを使った、「モバイルスタンプラリー」の方が、非接触式でありコロナ対策ができ、かつスタッフの手間が少なく、参加者にとっても便利な仕組みであることが分かった。

スタンプラリーがあることで、各拠点を周遊する動機づけとなった。

【利用人数】

合計参加数251、コンプリート59、2スタンプ達成数180

11月13日は参加数122、コンプリート27、2スタンプ達成数88

11月20日は参加数65、コンプリート13、2スタンプ達成数47

11月27日は参加数64、コンプリート19、2スタンプ達成数45

●チラシ作成状況

配布をすることができ、当日参加者に分かりやすい情報を発信することができた。

	<p>取組に対する指摘・意見</p>	<p>【実施主体・連携事業者・実証参加者から出た取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用の予約サイトや、イベントの公式サイト、おどんの紹介サイトなど複数あり、サイトに訪れる人によって得る情報に偏りがあった。 ・本来、順序としてはイベントの公式サイトを中心に組み立て、予約に誘導したりおどんの紹介に繋げたりするものである。 ・オンラインでのLIVE中継は参加者が生で見ることが困難であるため各会場のモニターで上映するなどできれば良かった。 <p>(事前登録、参加登録について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はやむを得ないが、事前告知が不足していたため情報先に偏りがあり情報伝達が遅いと参加者から不満の声があった。情報を得たとしても既に定員上限に達して参加が困難となっていた。 <p>【有識者・専門家から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地が満たすべき要件として、自分の足で登れる高い場所が必要とされる。これは、街全体の展望イメージを訪問者が持つことで、様々な体験がそのイメージを下敷きとして有機的に結びつき、都市のイメージがより確かなものになるからとされてきた。こうした伝統的な観光地のイメージビルディング戦略が未だ有効であることは確かだが、現代社会において、都市へのタッチポイントはその殆どが、スマホであることを考えると、今回の企画においてYouTube中継のスタジオが設置され、各所からの中継が展開されていたことは、特筆するに値しよう。但しtwitterのタグ付けに対して、ツーリスト参加型の動画のアップロードについても工夫の余地はあったかもしれない。おどんグルレポコンテストや、おにぎり具材のマッチングコンペ、堀川遊覧橋下歌謡コンテストなど、インフルエンサーによるツアーレポート、歴史専門家による地理ツーリズムレポートなど、松江の雰囲気や魅力を壊さない動画コンテンツとの連携可能性もあり得たのではないかと。 <p>(東京大学 羽藤 英二教授)</p>
--	--------------------	--

	<p>実施時に工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●公式ホームページ（実施及び記録・報告・PR）活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ内での「松江おどん」の紹介に加え、ツイッターとの連動をシステムに導入。サイトからツイッター投稿ができ、またツイッターの投稿を紹介できるように工夫した。 ・松江おどん×つながる地域 30 https://www.chiiki30.jp/ ・土曜つながナイト https://event.eco-uni.net/ ・エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 https://eco-uni.net/ ●オンライン交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ロケーションの優れた空き店舗の5階を中継の拠点として設置。各拠点の様子をスマホで撮影しながら、YouTubeのLIVE配信により紹介。 ・ゲストに登場いただき食レポや商品紹介、松江の魅力発信など楽しく情報量豊かな配信を行った。 ●モバイルスタンプラリー <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策の観点から非接触のシステムとして導入。 ・スタンプラリー終了の画面からアンケートのサイトへ繋がるようシステムを作成。アンケート実施に役立てることができた。 ●チラシ作成 <ul style="list-style-type: none"> ・周遊マップによりイベント全体を捉えることができるよう工夫した。 ・QRコードによりホームページやYouTube配信に誘導することができた。
<p>備考</p>		

取組3※1	松江おどんの多様化+地元で愛される商品のセット化の促進
取組時期	令和3年11月13日(土) ~ 令和3年11月27日(土)
取組主体者・ 連携者名	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 松江商工会議所、学校、松江市
取組 内容	<p>●松江おどん (準備)</p> <p>【実施内容】</p> <p>おでん店も多くおでんの街として知られる松江の魅力の一つとして、おでんの中にうどんを入れた「松江おどん」を選定。他の地域ではあまりない独自のメニューを磨き上げることとなった。</p> <p>「松江おどん」のバリエーションを増やすために従来からの複数の店舗に加え、新しい店舗の参入などを促すこととした。</p> <p>地元にある特産物などの商品と合わせたセット商品として売り出すことができるのではないかと検討することとした。</p> <p>【参画者】(所属・氏名)</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会</p> <p>事務局長 岩本雅之</p> <p>メンバー 伊瀬智章(松江商工会議所青年部 元会長)</p> <p>メンバー 川上美嘉</p> <p>メンバー 日野義正</p> <p>メンバー 小玉康宏</p> <p>メンバー 物部伸吾</p> <p>(参加店舗の選定)</p> <p>【実施内容】</p> <p>「松江おどん」の参加店舗の選定</p> <p>・しじみや奥出雲ポーク、海苔など地元の食材を使用したおどん提供既存店である「うまえもん」「たかの屋」「丸善水産」「一文字家」をはじめ、新規開発協力店として「カフェ太郎」「五八」「カフェール」が様々な味でおどんを提供した。</p> <p>11/13・食品ロスなし</p> <p>カフェ太郎(角煮おどん)50食、うまえもん(しじみおどん)50食、カフェール(お肉と薬味のおどん)40食、五八(中華おどん)40食</p>

11/20・食品ロスなし

カフェール(お肉と薬味のおどん)46食、たかの屋(奥出雲ポークのあご出汁おどん)50食、うまえもん(しじみおどん)50食、五八(中華おどん)45食

11/27・食品ロスなし

カフェ太郎(麻辣おどん)50食、一文字家(松江おでん・出雲そばトッピング)50食、たかの屋(奥出雲ポークのあご出汁おどん)50食、RCクリエイティブ丸善水産(のりおどん)45食

会場の設定

松江らしい風情のある場所として松江の中心部カラコロ広場を選定。歩いて江戸風情の残る街並みを感じられ、また職人・商人の町として知られる京店商店街の協力も得られる地域である。松江城が近く、堀川遊覧船等松江の観光の発着点である拠点であった。

当日は、多くの店舗で販売を行っていただくことで、各店舗自体の紹介をすることができ、「松江おどん」という観光資源を盛り立てる基盤である店舗のサポートを行うことができた。

お客様にはセット商品より3品選定していただき、おどんと共に合うセット商品として提供した。セットにすることで更なる魅力をセット販売につなげるよう工夫した。

【参画者】(所属・氏名)

エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会

事務局長 岩本雅之

メンバー 伊瀬智章(松江商工会議所青年部 元会長)

メンバー 川上美嘉

メンバー 日野義正

メンバー 小玉康宏

メンバー 物部伸吾

さんれいフーズ

常務取締役 門脇寛行

部長 伊藤哲也

京店商店街

副理事長 金川大三

	<p>出店店舗 8 社</p> <p>(商品開発)</p> <p>【実施内容】</p> <p>松江養護学校での新商品開発、島根県立大学での新商品開発案、キャラクター制作を検討した。</p> <p>島根県立大学での新商品案にもとづく松江おどんを、社会福祉法人四ツ葉福祉会が作成することとした。</p> <p>スタンプラリーの景品として、松江養護学校の新商品を提供することとした。</p> <p>【参画者】(所属・氏名)</p> <p>エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会</p> <p>事務局長 岩本雅之</p> <p>メンバー 岩本千代</p> <p>メンバー 木谷友映</p> <p>メンバー 若槻弘子</p> <p>島根県立大学</p> <p>准教授 西村健一</p> <p>松江養護学校</p> <p>進路支援部長 佐渡仁</p> <p>社会福祉法人四ツ葉福祉会 障害者支援施設四ツ葉園</p> <p>施設長 毛利勇介</p> <p>●松江おどんの提供について</p> <p>各店舗で抹茶おどん等の個性豊かな松江おどんを販売していただいた。</p>
--	--

	<p>●カラコロ広場では予定提供食数 480 食を大きく超え、総食数 566 食全てを提供することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラコロ広場でのおどんの種類 <ul style="list-style-type: none"> ①しじみおどん ②中華おどん ③角煮おどん ④お肉と薬味のおどん ⑤奥出雲ポークのあご出汁おどん ⑥松江おでん（出雲そばトッピング） ⑦のりおどん ⑧麻辣おどん <p>「松江おどん」セット商品の選定。地元商品、地元の特産品を選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元可愛される魅力ある商品 <p>日本酒・月山・豊の秋 ビール・ビアへるん 飲料・縁の水・出雲はとむぎ茶・出雲生姜じんじゃエール ごはん・松江料理宝石箱・ものべのおにぎり おかず・あご野焼・ビーフコロッケ・ミンチカツ おつまみ・江津まる姫ポークの佃煮・あごごま七福神・肉味噌・するめ糍漬・島根県産さば塩辛</p> <p>おどんステーションでは予定 120 食を超え 126 食を提供することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おどんステーションでのおどんの種類 <ul style="list-style-type: none"> ①あごだしカレーおどん ②あごだしドームおどん ③あごだし抹茶おどん <p>●松江おどんセット商品の提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラコロ広場でのセット商品 <p>さばの塩辛や珍味、コロッケ、地酒、地ビールをはじめ、地元の特産品を提供し、商品の紹介サイトを QR コード表示や POP でアピールするなど、販売促進へ向けた PR を行うことができた。</p> ・おどんステーションでのセット商品
--	---

		<p>①マリトッツォ（生クリーム） ②マリトッツォ（チョコクリーム） ③大判焼き（ハムたまご）</p> <p>●スタンプラリー景品について 四ツ葉福祉会・島根県立松江養護学校提供の商品を景品として利用し、地域の福祉施設の商品の紹介PRにもなった。また、ユニバーサルな経済活動のあり方を考えるキッカケとなった。</p>
	<p>取組に対する指摘・意見</p>	<p>【実施主体・連携事業者・実証参加者から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江おどんの認知度は低かったため、今回のことをきっかけに広めていくべきではないか。 ・おでんに単なるうどんが入っているだけかと思っていましたが、様々な出汁が凝縮されていて全く別の素晴らしい名物だとわかりました。全国のコンビニなどで販売されたら知名度が格段に上がると期待しています。 <p>【有識者・専門家から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おどんグルレポコンテストや、おにぎりの具材のマッチングコンペなど動画コンテンツと連携しての実施 <p style="text-align: right;">（東京大学 羽藤 英二教授）</p>
	<p>実施時に工夫した点</p>	<p>●松江おどんの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おどん提供店にはそれぞれ独自性を依頼、四ツ葉福祉会は島根県立大学の学生のアイデアに基づき試行を重ね、新たな松江おどんを実現した。 <p>●松江おどんセット商品の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江の特産品をおどんに合わせたり、スイーツを合わせるなど、多種多様な組み合わせを実現した。 <p>●スタンプラリー景品について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景品として四ツ葉福祉会のクッキーや、松江養護学校の木工細工や布細工など障がい者の方々にも参画いただいた。
<p>備考</p>		

取組 4 ※1	おもてなし観光・地域の共生・にぎわい交流
取組時期	令和3年11月13日(土) ～ 令和3年11月27日(土)
取組主体者・ 連携者名	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 一般社団法人 Expe、島根県立大学、福祉団体、松江市
取組 内容	<p data-bbox="405 602 611 633">●空き店舗活用</p> <p data-bbox="416 654 564 685">【実施内容】</p> <p data-bbox="405 705 1398 808">空き店舗を活用し、おもてなし観光の拠点ができないか。福祉的な視点から障害の有無に関わらず訪れることができ、にぎわいを創出することができるかを検討することとした。</p> <p data-bbox="416 884 842 916">【実施者・参加者】(所属・氏名)</p> <p data-bbox="405 936 1080 967">エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会</p> <p data-bbox="432 987 699 1019">事務局長 岩本雅之</p> <p data-bbox="432 1039 699 1070">メンバー 岩本千代</p> <p data-bbox="432 1090 699 1122">メンバー 木谷友映</p> <p data-bbox="432 1142 699 1173">メンバー 若槻弘子</p> <p data-bbox="432 1193 699 1225">メンバー 岡田昌治</p> <p data-bbox="405 1245 647 1276">一般社団法人 Expe</p> <p data-bbox="432 1296 611 1328">代表 広瀬徹</p> <p data-bbox="405 1348 580 1379">島根県立大学</p> <p data-bbox="432 1400 668 1431">准教授 西村健一</p> <p data-bbox="405 1451 1110 1482">社会福祉法人四ツ葉福祉会 障害者支援施設四ツ葉園</p> <p data-bbox="432 1503 670 1534">施設長 毛利勇介</p> <p data-bbox="405 1610 756 1641">●アクティビティについて</p> <p data-bbox="416 1662 564 1693">【実施内容】</p> <p data-bbox="405 1713 1398 1778">おせわさんセンターで実施しているアクティビティについて検討し、本実証においても各拠点で実施することとした。</p> <p data-bbox="405 1798 1398 1863">新しいアクティビティとして「松江おどん」にも通ずる「うどん打ち」や本年中止となった松江名物行事「鑿行列」の「鑿打ち」を加えることとした。</p> <p data-bbox="416 1883 842 1915">【実施者・参加者】(所属・氏名)</p> <p data-bbox="405 1935 1080 1966">エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会</p>

	<p>事務局長 岩本雅之 メンバー 岡田昌治 メンバー 武田英俊 一般社団法人 Expe 代表 広瀬徹 株式会社アート 取締役専務 伊瀬智章</p> <p>【実施内容】 アクティビティ参加申込みにあたって、予約管理がしやすいよう専用予約サイトを作成した。 専用予約サイトの機能拡大と登録人数増を図るために有料契約をすることとした。</p> <p>【実施者・参加者】（所属・氏名） エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之 メンバー 武田英俊 メンバー 岡田昌治 一般社団法人 Expe 代表 広瀬徹 株式会社アート 取締役専務 伊瀬智章</p> <p>●おせわさんアクティビティ実施状況 体験プログラムを 11 種類実施。 定員 320 名に対して 232 名。</p> <p>空き店舗を活用し、茶道体験など、アクティビティに参加していただくことで、地元松江で実施している体験活動について PR を行うことができた。 特に空き店舗の室内から夜景を見ながら体験ができるロケーションは好評であった。</p> <p>●整行列実施状況</p>
--	---

		<p>観光客の方も喜んで参加され、初めて鑿を叩く方もいらっしやった。</p> <p>松江の伝統文化である鑿たたきを伝えることができ、観光資源のPRにつながった。また鑿の響きが、たくさんの人々が寄り集まるキッカケとなった。</p> <p>●予約サイト活用状況</p> <p>アクティビティの時間帯ごとの参加人数を図るために、予約サイトを活用した。</p> <p>予約サイトがあることで、当日の受付もスムーズに行うことができた。また、参加者数を予めコントロールすることができ、食材や準備数量の目安が事前に把握できたこと、かつ安全対策や密にならない空間を維持することができた。</p> <p>●空き店舗カフェ ロボット配置状況</p> <p>カフェのホールスタッフとしてコミュニケーションロボットを配置し、学生や障がい者が遠隔で注文を受けるシステムを実施。</p> <p>感染症対策の観点や、共生社会の実現という点でマッチした。</p>
	<p>取組に対する指摘・意見</p>	<p>【実施主体・連携事業者・実証参加者から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロケーションが素晴らしく昼夜問わず活用すべきだが、建物が古く、トイレや段差などの修繕が必要で、バリアフリーの課題もある。 ・場所が分かりづらい、また利用にあたって周辺の駐車場の案内が必要だと思う。 ・1つの空きビル活用に、体験プログラム、障がい者協カスタッフ、福祉施設、学校、大学、プレゼンスロボットの活用など、複数の事柄を結び付けたこの企画は素晴らしい。今後の可能性が広がるものだと考えます。

	<p>実施時に工夫した点</p>	<p>●空き店舗活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗を活用し、地域の共生・にぎわい交流の場をつくり、島根県立大学と島根県立松江養護学校との連携を図ることができた。 ・ロケーションが素晴らしく、松江宍道湖からの夕日や夜景が望める空き店舗を使用して、カフェや体験プログラムを実施。1階のラウンジをカフェとして使用。照明を追加して室内の明るくし、障がい者作成の絵を飾るなど雰囲気づくりを工夫した。 ・カフェでは、松江養護学校の生徒がスタッフとして関わり、また島根県立大学の学生がプレゼンスロボットを遠隔で操作して注文を受けるという福祉的な取り組みを行った。 ・5階のラウンジはオンライン中継の拠点を設置し、テレビの情報番組さながらの中継を行った。 <p>●アクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江を体感できるアクティビティを11種類、各拠点において実施。 <ol style="list-style-type: none"> ①うどん打ち ②あっちゃん先生の酒肴散歩 ③利き酒体験 ④宍道湖の夜 キャンドルで墨&ヨガ ⑤たそがれ茶道体験 ⑥水引きアクセサリー ⑦陶芸てびねり体験 ⑧墨絵体験 ⑨ミニ畳作り ⑩どう打ち体験 ⑪怪談ツアー <p>空き店舗を活用して優れたロケーションでの「茶道」や「ヨガ」のほか、「うどん打ち」や「利き酒」などを企画実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小泉八雲ことラフカディオハーンは「怪談」で有名な松江ゆかりの文豪であるが、体験プログラムの中で怪談にまつわるものを実施した。
備考		

取組 5 ※1	水燈路による、まちあるきに優しい道しるべづくり
取組時期	令和3年11月13日(土) ~ 令和3年11月27日(土)
取組主体者・ 連携者名	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 山陰だんだん屋台村、石材協会
取組 内容	<p>●行燈について (準備)</p> <p>【実施内容】 松江の風物詩「松江水燈路」が本年中止となったことから、松江の夜を彩るライトアップとして使用できないか検討することとした。 グリーンスローモビリティの走行中や、まち歩きなどの際に道しるべとして使用できないか検討することとした。 対象拠点の一つである松江しんじ湖温泉は、今年、開湯50周年であり記念行事である行燈設置事業との連携を図る。</p> <p>【実施者・参加者】(所属・氏名) エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之 メンバー 山本幸史 山陰だんだん屋台村 代表 大国富栄 株式会社 丸加石材工業 代表取締役 加納孝通</p> <p>(配置)</p> <p>【実施内容】 松江水燈路の配置にあたり、道路通行の支障がないようにすること、道しるべとしては予定設置数では十分ではないことなどから、イベント内の各拠点に配置することとした。</p> <p>【実施者・参加者】(所属・氏名) エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之 メンバー 山本幸史 山陰だんだん屋台村 代表 大国富栄</p>

	<p>株式会社 丸加石材工業 代表取締役 加納孝通</p> <p>●石燈について</p> <p>【実施内容】 名産である来待石を使った石の燈籠 25 個を湖沿い等に配置し、見る人を楽しめるライトアップを実施することとした。</p> <p>【実施者・参加者】（所属・氏名） エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之 メンバー 山本幸史 山陰だんだん屋台村 代表 大国富栄 株式会社 丸加石材工業 代表取締役 加納孝通</p> <p>●マンモス行燈について</p> <p>【実施内容】 松江市で保管されていた、人気漫画「はじめ人間ゴン」「はじめ人間ギャートルズ」の作者で、島根県松江市生まれの園山俊二氏の没後 30 年へ向けた取り組みとして 2019 年に制作された、巨大マンモス行燈をカラコロ広場に配置し、見る人を楽しませるフォトスポットにした。</p> <p>【実施者・参加者】（所属・氏名） エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 事務局長 岩本雅之 メンバー 山本幸史 山陰だんだん屋台村 代表 大国富栄 株式会社 丸加石材工業 代表取締役 加納孝通 株式会社 梶野工務店 代表取締役 梶野孝彦</p> <p>●行燈実施状況 松江の伝統行事である松江水燈路の紹介も含めて、行燈を活用できた。</p>
--	--

		<p>小さな仕掛けが、水の都松江の夜の魅力づくりに大きな効果があった。</p> <p>●石燈実施状況</p> <p>来待石にLEDをつめた石燈を設置し、ライトアップを行った。</p> <p>地元特産である来待石のライトアップは幻想的で、水辺の夜景とマッチしており、見る人を楽しませた。</p> <p>●マンモス行燈実施状況</p> <p>大人も含め、子どもたちにも好評で、マンモス行燈と一緒に写真を撮られる光景が見られた。インパクトのある行燈があることで、大きな集客効果となった。また、マンモス行燈を運ぶ際に、スタッフの協力があり、安全に運搬することができた。</p>
	<p>取組に対する指摘・意見</p>	<p>【実施主体・連携事業者・実証参加者から出た、取組に対する指摘・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灯りが燈って祭りの雰囲気を作られていた。さりげない灯りの風情があった。 ・カラコロ広場のマンモスはインパクトが大きかった。 ・夜の松江を歩くのも風情があってウキウキした。
	<p>実施時に工夫した点</p>	<p>●行燈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路通行の妨げにならないよう、それでいて安全に夜の道を誘導できるよう配置場所に工夫をした。 ・毎回の設置と撤収は大変な労力を要するため、空き店舗を活用して保管し、設置と撤収をスムーズに行った。 ・巨大なマンモスの行燈を借用し、イベント会場が際立つよう工夫した。 <p>●石燈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石燈などには安全性の面から実際の火は使用せず、LEDランプを使用。カラフルな色彩によるライトアップができるように工夫した。
	<p>備考</p>	

5 成果目標 (KPI) 達成状況

※ 実証 (モニターツアーなど) の満足度について、必ず記載してください。

なお、元々KPIとして設定していた場合は本項に、そうでない場合は次項「3 成果目標 (KPI) のほか、追加的に得られた成果」に記載してください。

定性/ 定量	内容	達成状況	達成状況詳細
定量	グリーンスローモビリティドライバーの育成18名	未達成	2名育成 18分の2達成
定量	松江おどんの開発・拠点、 お店での提供・PR促進 10種類	達成	8社(出店数) 10分の11達成 うまえもん・五八・カフェ太郎(2種類) カフェール・たかの屋・一文字家 丸善水産・四ツ葉福社会(3種類) ※おどん11種類
定量	セット商品PR お酒・おにぎり・野焼き・ 和菓子・お茶・しじみ・ 食品加工品 10品目	達成	17社(製造元) 10分の19達成 お酒(3)・飲料(3)・おにぎり(1)・弁当(1)・食品加工(8)・大判焼き(1)・マリトッツォ(2) ※別紙参照
定量	集客数 松江市民300名(100名× 3日) 観光客90名(30名×3日)	達成	延べ総数892名(実人数717名) ※松江市民延べ849名 300分の849達成 観光客132名 90分の132達成(内島根県外89名)
定量	水燈路の設置数 100個×3日	達成	104個×3日 300分の312達成
定量	おもてなし観光体験プログラム数 拠点5か所 ×3日 5~10プログラム	達成	11プログラム達成
定量	アンケートの実施・検証 グリーンスローモビリティ 移動支援 満足度7割	達成	
定量	アンケートの実施・検証 堀川遊覧の観光・地域活	達成	

	用 満足度 7 割		
定量	アンケートの実施・検証 おもてなし観光・with コ ロナに向けた観光満足度 7 割	達成	
定量	松江おどん×松江つな がるプロジェクト ツイッ ター利用者数 1,000	達成	ツイッター投稿数 1,109 件達成。
定量	グリーンスローモビリテ ィ 無料送迎サービスの 民間協力運行 (3~5 社)	未達成	タクシー会社 1 社 3 分の 1 達成
定量	グリーンスローモビリテ ィ 民間交通事業者によ る観光等の有償運行 1 ~3 社	未達成	将来目標。今後可能性あり。
定量	松江おどん周辺商品(食 器類・工芸品・グッズ等) の開発・販売促進 民間 20 商品	未達成	吉田酒造 1 商品 ..唼酒用「月山」名入りおちょこ 20 分の 1 達成 将来目標。
定量	松江おどん周辺商品(食 器類・工芸品・グッズ等) の開発・販売促進 福祉・教育 10 商品	未達成	社会福祉法人みずうみ 社会福祉法人四ツ葉福祉会 島根県立大学 島根県立松江養護学校 10 分の 4 達成 将来目標。
定量	松江おどん周辺商品(食 器類・工芸品・グッズ等) の開発・販売促進 教育機関 10 校	未達成	島根県立大学、松江養護学校 10 分の 2 達成 将来目標 布製品、木工製品、陶芸、消臭剤
定量	ユニバーサルツーリズム の推進 地域の共生・に ぎわい交流の促進 会議毎月 1 回	達成	エコ×ユニ会議実施 継続的な目標
定量	継続的な公民連携体制の 構築・強化 多種・多様 な人材交流	達成	エコ×ユニ会議登録者 160 名 継続的な目標

	参画人数 130 名		
定量	空き家・空き店舗・空地の把握と活用促進 おんぼらとステーションの推進 5 店舗（公民連携）	未達成	旧松江くらぶ 北堀おんぼらとステーション 5 分の 2 達成 将来的な目標
定性	アンケートを活かした次年度以降のイベントの実施	未達成	将来的な目標
定性	松江おどん×つながるプロジェクト 観光活用の促進	未達成	継続的な目標

上記成果目標達成状況に対する自己評価

当初の成果目標に対して一部未達成はあるものの、全体として事業の進捗には大きな影響はなく実施ができた。コロナ禍という状況の中で実施に向け不安な声もあったが、ワクチン接種が進み徐々に人々の行動が緩和されるに従って、町に賑わいを取り戻すこのイベントへの期待感が高まってきた。コロナ対策としての事前登録制や人数制限、誘客開始から事業実施までの期間が十分に取れなかったことで参加者確保に苦戦をしたが、まずは協力者である関係者やその周辺の方々の参加を進めたこと、複数回の開催によって改善を図りつつ情報を拡散して集客できたことが功を奏した。また、関係者がそれぞれ得意とする分野で業種の垣根を越えて連携をしたことが成果へとつながった要因である。

- ※ 1 必要に応じて行を追加してください。また、空白行は削除してください。
- ※ 2 KPI 等を示す資料があれば添付してください。

6 成果目標（KPI）のほか、追加的に得られた成果

定性/ 定量	内容	達成状況詳細
定性	イベント開催のための 感染対策の指標	感染症対策マニュアルの作成
定性	<p>イベント開催にあたっての各種情報提供ツールと参加者評価（アンケート）ツールの作成</p> <p>アンケートによる参加者評価と意見収集</p>	<p>※以下のサイトを参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松江おどん×つながる地域 30 https://www.chiiki30.jp/ ・ 土曜つながナイト https://event.eco-uni.net/ ・ エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 https://eco-uni.net/
上記成果目標に対するコメント（自由記載）		
<p>・ 景観や食などのコンテンツがモビリティの活用により、夜型観光促進に繋がることを証明した有意義な事業であったと評価します。</p> <p>・ おどんの残数、グリスロ満空数、堀川遊覧残席数が見える化されることや、リアルタイムに来訪需要量が分かる仕組みがあれば、需要を満たすサービス提供が期待され、もし臨機応変に供給増が実行できるなら参加者の評価がもっと上がると思われる。安全対策にも効果的と思われる。</p> <p>逆に需要が少ないなら供給サイドの体制を見直すことも可能であり、過剰な供給量を避け、コスト削減が期待される。これを実現するには、松江市が次世代まちづくりとして、例えば各地で検討されているスマートシティのような（デジタル田園都市のような？）様々なまちなかセンサーを常時配置・観測し、それをオープンデータ化しながら、（松江 ruby 等を活用した）観光サービスアプリの開発を促すことも検討していく必要がある。</p>		

- ・エコ×ユニの会、並びに社会福祉法人みずうみを中心とした、官学民住による連携と熱心な活動により、今後に繋がる大いなる成果が出た。
- ・感染症対策マニュアルは、コロナ禍でのイベント開催に光を当てる物だと思います。HPについては、今後のエコユニの活動に十分活かせるツールであり、SNS と併せて活用することで、集客等に十分活かせることが実感できました。アンケートについては、実証実験ということもあり項目が多く、非常に手間がかかり、熟慮して回答する人は少なかったのではないかと推測します。いずれにしましても、今回の実証実験を行ったことにより、次へ繋がるツールを作成することができたと思っています。
- ・アンケートにより参加者の評価や意見を収集することで、客観的な目線での振り返りを行うことができた。
- ・実証イベントの開催回ごとに改善に取り組み、細かく見直しを行うことで高いイベント満足度を実現することができた。
- ・感染症対策について、作成したマニュアルに従いイベントを運営することができており、参加者の安心につなげることができた。
- ・アンケート結果でも参加者の97%が感染症対策について高評価をしている状態であった。
- ・イベント時の写真をサイトで公開することで、水都まつえの魅力を継続的に発信するとともに、今後のイベント開催に向けたPRに繋げることができた。
- ・感染対策マニュアルの作成・順守や参加者の意見を参考にすることで真の意味のwithコロナにおける事業開催のあるべき姿を示す事ができた。

※ 必要に応じて行を追加してください。また、空白行は削除してください。

7 事業目標達成に向けた5つの評価指標セルフチェック

※達成していると思う項目に○を記載してください。(各指標において複数選択可)

1	体制面・運営面の評価	
1.1	実証事業後も運営可能な主体者（組織）がある	○
1.2	実証事業後も事業関係者との域内連携の体制が出来ている	○
1.3	実証事業後もサービス提供が可能な体制である	○
1.4	実証事業後も PDCA が可能な体制である	○
1.5	地域住民の生活向上を意識した運営に取り組んでいる	○
2	磨き上げる地域資源の評価	
2.1	磨き上げの核となる地域資源は明確に定まっている（有形・無形不問）	○
2.2	地域固有の資源である	○
2.3	既存の地域資源を再構築して磨き上げた観光資源である	○
2.4	複数の事業者（域内連携）によって新たに創出した観光資源である	○
2.5	多産業とのコラボ（域内連携）によって新たに創出した観光資源である	○
2.6	地域ブランディングを意識した観光資源である	○
3	地域資源の磨き上げに対する評価	
3.1	ターゲット（顧客）がきちんと設定できている	○
3.2	ターゲット（顧客）の好みや欲求、行動について、研究している	○
3.3	ターゲット（顧客）を意識した、磨き上げ（サービス開発）を行っている	○
3.4	ターゲット（顧客）に提供する体験価値を意識している	○
3.5	ターゲット（顧客）の潜在的なニーズに対して、磨き上げを行っている	○
4	検証内容に対する評価	
4.1	実施回数・参加者数（モニタリング数）・アンケート回収数	○
4.2	スムーズな現地対応や受け入れ、連絡体制についての検証	○
4.3	サービスの顧客満足度と顧客不満足度（課題）の調査	○
4.4	サービスの購入意向・価格の受容度についての調査	○
4.5	顧客へのインタビューや行動観察による潜在ニーズの調査	○
5	旅行商品化に向けた評価	
5.1	業法を順守している（旅行業法・食品衛生法・景表法など）	○
5.2	サービス提供（予約・手配・現地対応等）が可能な体制が出来ている	○
5.3	サービス内容、設定期間、販売価格を明確に記している	
5.4	手仕舞い日や手数料など、必要とされる条件を定め、タリフ化されている	
5.5	自走化（経済的自立）が可能なビジネスモデルになっている	△

8 本事業で挙げられた成果

※ 本稿には、「**事業全体を通じて**得られた成果」を記載してください。

番号	成果概要	成果詳細	考える成功要因・工夫した点
成果 1	松江に賑わいを取り戻す	・カラコロ広場を拠点として鑿の音が響く中、堀川遊覧や松江おどんに惹かれ多くの方々が参加された。	・会場としてカラコロ広場を選定したことで複数のアクティビティと食が重なり老若男女問わず参加できた。
成果 2	夜の松江の魅力を磨き上げる	・堀川遊覧の夜間運行に更に音楽演奏も加え価値を高めた。 ・16:00~21:00の時間枠でアクティビティと食を合わせ長時間参加できるイベントができた。 ・夕暮れから夜までの景観を楽しむまち歩きが実現できた。 ・夜の城下町に訪問する機会の少ない家族連れや子供たちが多く参加できた。	・魅力あるものを一つに繋げ、まとめることで、より魅力や価値を高めることができた。
成果 3	官民連携、多業種によるイベント開催	・イベント検討段階からイベント実施まで綿密な打ち合わせを重ねながら進めることができた。	・エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会が中心となって官民連携の活動を続けてきたため。
成果 4	横の導線をつなぐ新たな城下町魅力化と回遊促進	・歩くには少し遠い距離のエリア間をグリスロ運行により回遊が促進された。	・天候にも恵まれ、乗りやすくアトラクション的なグリスロが多くの方に受け入れられた。また、モバイルスタンプラリーも回遊促進の向上に寄与した。

※ 必要に応じて行を追加してください。また、空白行は削除してください。

9 本事業を通じて見えてきた課題とその解決方法

※「本事業を通じて見えた課題」は、必ずしも10件すべて記載する必要はありませんが、事業全体の課題の洗い出しをしたうえでご記載ください。

※「添付資料名」欄に添付資料のファイル名を記載してください。添付資料がない場合などを除き、原則として提出をお願いします。

番号	本事業を通じて見えた課題 (当初想定からの相違や苦労している点などを含む)	想定される対応策
課題1	観光宿泊客への誘客など 地域外に向けての情報発信	・十分な準備期間と周知期間。 ・宿泊施設や各種観光情報発信サイトを活用した情報発信。観光協会との連携の強化。
課題2	松江しんじ湖温泉での 賑わい創出	・COCO松江や宿泊施設を活用したイベント、プログラムの実施。
課題3	スタッフの人員削減と オペレーションの効率化	・デジタルでのシステム管理を実施。予約や当日の受付、誘導をスムーズに行う。
課題4	おどん商品化にむけた 値段設定	・コストバランスを考慮した質と量の調整。
課題5	グリスロ夜間運行の安全確保	・観光エリアでのゾーン20、ゾーン30の設定とドライバー育成。
課題6	交通事業者調整や車両調達・ 運行方法	・交通事業者が主体的にグリスロ運行に関与できるよう早めの調整（有償運行、日頃からの観光運用、車両所有、貸与等）。 ・需要に応じた台数確保や満空情報、位置情報による利便性の向上等。
課題7	参加しやすい・運用しやすい 有料事業	・サブスク型料金の設定など関係主体間で連携を図る。
課題8	他の交通モードとの連携強化	・バスやタクシー利用者への特典、乗換場所（モビリティハブ）の確保や案内誘導の強化。
課題9	コンテンツやスポットの 更なる拡充	・地元商店や空き店舗など隠れた資源の掘り起こしと連携利用。 ・しじみ漁など朝イベントによるコンテンツ拡充。
課題10	他事業との連携	・同時開催している他事業との連携（案内の一体化、グリスロ乗入れ等）

課題内容

	課題 1 1	悪天候時の対応	・雨天対策として屋内利用できるスペースの更なる確保、防寒対策としてグリッド内の電気マットなど様々な工夫。
--	--------	---------	--

※ 「課題内容」欄は必要に応じて行を追加してください。

10 将来的に目指す姿

※ 「添付資料名」欄に添付資料のファイル名を記載してください。添付資料がない場合などを除き、原則として提出をお願いします。

年次	目指す姿	実施事項
～1年	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業のメリットを最も享受できる中心的な実施主体の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や調整により実施主体を絞り込み、効果的な体制について再検討する。 ・松江市市民部との連携
2～3年	<ul style="list-style-type: none"> ・持続的な実施が可能な効率、効果的なオペレーション ・夜の回遊エリアの拡大やルート、乗降所の拡充による魅力向上、安全対策の強化 ・松江おどん等、魅力ある商品の開発と販売促進 ・空き家や空き店舗の活用など魅力的な立ち寄りスポットの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化等の推進によりオペレーションの効率化を図る。 ・商店街などトランジットモール(中心市街地や商店街の歩行空間において、公共交通のみが運行する場所)化による安全対策。 ・グリスロ車両を地域内(事業所)で所有し、民間事業者(タクシー等)が、有償にて活用できるよう地域理解を進める。 ・松江市商工企画課との連携 ・官民連携によるエコ×ユニ会議等を通じた地域情報の収集と地元調整。 ※松江市資産経営課との連携。 松江市建築指導課との連携。
将来的なビジョン		
<p>【地域・事業が最終的にどうなっていてほしいか。理想的な将来像・コンセプト・意義などを交えてご記載ください】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民も観光客も喜ばれる夜のマイクロ観光モデル」 <p>具体的には、水都松江の優れた景観インフラ、歴史文化、食文化等の観光資源を最大限に活用し、人にも環境にも優しいナイトエコノミーモデル都市を目指す。</p> <p>将来的に目指す姿を実現するための取り組みは、松江の文化力を活かしたまちづくり条例(松江の文化を生かしたまちづくり条例.pdf)を下敷きに、市内外も含めた様々な団体や世代を超えて、団結、協力、連携しながら、松江人が総力を挙げ、アフターコロナの新たなまちづくりを率先して取り組む。</p>		

※ 本項目は「5 本事業を通じて見えてきた課題とその解決方法」を踏まえて記載してください。

1.1 自走化に向けたビジネスモデル

※ 「添付資料名」欄に添付資料のファイル名を記載してください。添付資料がない場合などを除き、原則として提出をお願いします。

自走化に向けたビジネスモデル	事業構造	ターゲット	どの層に価値を伝えるのか <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元住民 ・ 宿泊観光客 ・ 家族・親子連、ビジネス客、学生
		差別化要因	他の商品・コンテンツとの違いは何か <ul style="list-style-type: none"> ・ 水路と陸路から夕景夜景を眺めながら城下町を回遊し、伝統文化や食文化を堪能できるナイトエコノミー事業を地元事業者や福祉事業者らが作り上げた点
		提供方法	どのように価値を伝えるのか <ul style="list-style-type: none"> ・ ナイトエコノミーパッケージ商品として観光協会や商工会議所等が中心となり広くPRを行う。 ・ グルメレポート、専門家やインフルエンサーによる体験レポート等を、SNS やTV・ラジオなど組み合わせて市内外にPR。
		販売チャネル	誰がどのように顧客に価値を販売するのか <ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市共創のまちづくり推進本部を中心に、官民連携体制(エコ×ユニの会)を深化し、松江市観光協会等と連携しながら進めていく。 ・ 主に松江しんじ湖温泉組合が中心となり、宿泊予約時やチェックイン時に商品を案内し、セット販売を行う。 ・ 市民向けには京店等の商店街組合が中心となり、各店舗にて、あるいはネット予約により販売を行う。

	収益構造	収益	<p>【収益源】</p> <p>収入 300 万円目標</p> <p>●プレミアムチケット</p> <p>3,000 円×300 人/日×3 日(270 万円)</p> <p>※同伴小学生以下無料</p> <p>(内訳)</p> <p>①観光 まちあるき周遊(2,000 円)</p> <p>※グリスロ 1day + 堀川遊覧 1day + 温泉入浴</p> <p>②松江おどん・おもてなし商品セット(1,000 円)</p> <p>※松江おどん 1 食 + 商品 1 品</p> <p>●お得な商品セット</p> <p>1,000 円×100 人/日×3 日(30 万円)</p>
		費用	<p>支出 300 万円目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリスロ運行企画費等 15 万円×3 日 ・堀川遊覧運航企画費等 15 万円×3 日 ・松江おどん・おもてなし商品 材料費 30 万円×3 日 ・お得な商品セット材料費 10 万円×3 日 ・広告宣伝・温泉入浴等その他経費 25 万円×3 日 ・小学生以下無料サービス経費 5 万円×3 日
備考	<p>※水燈路については、松江観光協会と連携を図る</p> <p>※おもてなし観光体験プログラムについては、一般社団法人 Expe との連携を図る</p>		

※自走化に向けたビジネスモデルを可能な範囲内で具体的に記載してください。なお、補足説明を行うための資料や写真等があれば、「4-3 画像提出ファイル」を用いて添付をお願いします。

専門家派遣を受けた事業者は、以下の欄を記入

12 専門家からの支援内容

期間	令和3年11月13日(土)～令和3年11月13日(土)
専門家氏名	東京大学工学研究科 教授 羽藤 英二
事業者側参加者	岩本雅之、山根啓典
支援分野	本事業を通じた松江市の観光まちづくり全般について
支援対象取組	グリーンスローモビリティ、モバイルスタンプラリー、松江おどん、ツイッター、その他全般
支援内容	<p>※実際に体験してもらい、以下の助言を頂いた。</p> <p>本プロジェクトは、COVID-19で疲弊している松江において、地元有志による観光周遊の活性化を狙ったものである。賑わいによる店舗戦略は、COVID-19による生活習慣の転換によって将来的にはECへの転換が加速していることから、物販に頼った観光市街地のあり方を転換せざるを得ない。このことを考えると、おどんという松江でしか味わえない名物の掘り起こしと、作り手の工夫と参加によるメニュー多様化、および鯖の塩辛など地元の名産品とのコラボレーションには一定の効果があるものとする。滞在時間の増加と、食という体験を下敷きとする物販の可能性を持っている。ツアーをツーリズムへと発展させるためには担い手の育成が不可欠であり、今回のプロジェクトを通じて、様々な人々の関与とネットワークの涵養がなされていたことも印象に残った。松江城址の塩見縄手を中心とする歴史ゾーンに対して、近代化の過程を辿った市街地過程で大火によって免れた京橋川から大橋川、宍道湖温泉まで水を通じて地域資源は広範囲に及んでいる。こうした点在するサイトは、それぞれ同士が適度な距離感で結ばれてはいるものの、全てを周遊しようとすれば、時間がかかる。後期高齢者や子連れまでの取り込みを考えれば、歩行支援は必要不可欠と云ってよからう。グリーンスローモビリティは、この点を解消すると位置付けられるが、松江の裏通りによってサイト同士を結ぶことで直交性の高い体験が可能になっていた点は評価できよう。松江しんじ湖温泉とカラコロ広場のおどん体験などは、普段結びつかない体験が、堀川遊覧のような乗り物そのものが目的となる異なるモビリティによってつながれており、移動そのものが目的となりつつも、体験そのものも松江にしかないもので構成されており、ツーリズムの圏域拡大と地元の担い手育成という点で大きな可能性が感じられるものであった。</p>

以下改善点を整理する

・グリーンスローモビリティの移動経路途中にも地元の良店や歴史的なストーリーが存在するが、アクティビティの作りこみによって囲い込みがなされていた。感染症の管理という点では効果的だが、ツアー動線自体は市域のなかで希釈されており管理そのものも念入りに行われていたので、プラスワンデスティネーションの工夫があってもいいのではないか。

・具体的には、完成した感のある塩見縄手の城址地区に対して、雑賀町や天神地区、しんじ湖温泉といったゾーンへの周遊の拡大においては、途中の地元店情報の提供と途中下車の実施、しんじ湖温泉のプログラムの改善などが求められる。

・集団ツアーは、意思決定を委ねられるという良さがあるのに対して、一人旅は、自分で旅の道筋を判断していることが松江に対する認知的関与を高め、旅への関心や満足感を深めることになるだろう。全てをグリーンスローモビリティや堀川遊覧でつなぐのではなく、サイトからサイト途中の地域資源を掘り起こし、一人歩きを組み合わせることで、小さな冒険感を演出することが可能になるかもしれない。

・またこうした一人歩きに対して、各サイトはやはりある程度求心力が求められるものでもあるから、しんじ湖温泉などで各サイトには居場所感も欲しい。温泉に入ったり、マッサージを受けるなど、滞在型ツーリズムであれば、外湯文化が求められるわけなので、城址近傍のリノベーションされた宿泊先からの動線としてグリーンスローモビリティは有効だし、とすれば、しんじ湖温泉施設および周辺空間のリノベーションが中長期的には重要となろう。

・地ビールや地元名産のコロッケや珍味、おどんの食の体験は、松江の歴史的な空間における体験とは異なっているから、それを体験するための空間が求められる。旧市街地は一つの空間だが、やはり温泉に入った後のおどんと言った移動体験は、鉄板の松江の生活体験に近い観光スタイルとして定着する可能性もあるだろう。足湯や屋台などの整備も場合によっては組み合わせることも考えられよう。

・グリーンスローモビリティの場合、ドアがない開放感がモビリティとしてのよさみであるから、冬場は、ブランケットや電気マットなどを組み合わせることで、その体験はより印象的なものになる。甘酒などをサイトで手渡され、グリーンスローモビリティに乗ることで、松江の人々の優しさを実感できるかもしれない。

・料金についてだが、アンケートを取られていたが、単独での課金よりは、温泉チケットを各ホテルで配布し、サブスクリプション形式で実施することが望ましい。温泉は目的地なりえるし、そのことで途中の動線への経済的効果も期

	<p>待できる。今回提案した動線はその点的確なものなのだから、温泉ありきで支払いや空間計画としての、作り込みを目指すべきではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で地元市民のことを考えると、郊外からまちなかへ、まちなかからしんじ湖温泉へという動線確保は、温泉に入りたくても、免許返納してしまえば家族に送ってくれとは言にくいなどの課題もある。ピックアップポイントを街中にいくつか設ける相乗りなどのモビリティハブとしての空間確保と、まちなかの水平方向のエレベーターとしてグリーンスローモビリティのネットワーク化と乗り換え整備も必要だろう。ネットワーク化に伴い、担い手を確保することは厳しいから自動運転化が求められることになる。 ・観光地が満たすべき要件として、自分の足で登れる高い場所が必要とされる。これは、街全体の展望イメージを訪問者が持つことで、様々な体験がそのイメージを下敷きとして有機的に結びつき、都市のイメージがより確かなものになるからとされてきた。こうした伝統的な観光地のイメージビルディング戦略が未だ有効であることは確かだが、現代社会において、都市へのタッチポイントはその殆どが、スマホであることを考えると、今回の企画において YouTube 中継のスタジオが設置され、各所からの中継が展開されていたことは、特筆するに値しよう。但し twitter のタグ付けに対して、ツーリスト参加型の動画のアップロードについても工夫の余地はあったかもしれない。おどんグルレポコンテストや、おにぎり具材のマッチングコンペ、堀川遊覧橋下歌謡コンテストなど、インフルエンサーによるツアーレポート、歴史専門家による地理ツーリズムレポートなど、松江の雰囲気を壊さない動画コンテンツとの連携可能性もあり得たのではないか。
添付資料	<input type="checkbox"/> 専門家から支援を受ける際に使用した資料 <input checked="" type="checkbox"/> その他 （資料名：①松江土曜つながサイトの案内チラシ ）
備考	

期間	令和3年11月13日(土)～令和3年11月13日(土)
専門家氏名	東京大学公共政策大学院 准教授 三重野 真代
事業者側参加者	岩本雅之、山根啓典
支援分野	本事業を通じた松江市の観光まちづくり全般について
支援対象取組	グリーンスローモビリティ、堀川遊覧、モバイルスタンプラリー、松江おどん、その他全般
支援内容	<p>指摘内容・・・</p> <p>① 観光を中心としたグリスロ運行に関する検討会メンバーの選定について</p> <p>● 検討会メンバーの選定については、松江市長の強いリーダーシップとともに、公民連携任意団体「エコ×ユニの会」で、行政側の事務局体制強化が求められる。</p> <p>② 今回の事業を検証した上で、出来ることを継続するとともに、松江城～塩見縄手～石橋町を中心とした観光グリスロの走行実証事業が出来ないか考えているが、アドバイスを頂きたい。</p> <p>● 塩見縄手周辺は、ゾーン30地域だが、観光グリスロを走行させることで、時速19km以下に抑えることが出来る。効果として、観光客のまちあるきへの配慮や、車の通行量の減少が期待されると考える。これを基に組み立ててみてはいかがか。</p>
添付資料	<input type="checkbox"/> 専門家から支援を受ける際に使用した資料 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (資料名：松江土曜つながナイトの案内チラシ)
備考	

※1 報告内容には、どのような支援等を受けたのか、具体的に記載してください。

※2 必要に応じて、専門家と協議の上記載してください。